



インフルエンザ予防接種について①

インフルエンザは、健常な方から種々の疾患を有する方まで誰でもかかる疾患です。流行期に備えてワクチン接種をしましょう。

Q：インフルエンザワクチンは毎年接種する必要があるの？

A：必要です。その理由は2つあります。1つ目は、日本のインフルエンザワクチンは不活化ワクチンで効果が長く続かない事。2つ目は、流行が予想されるインフルエンザウィルスのタイプが毎年少しずつ変化し、ワクチンの内容が毎年異なるためです。

Q：ワクチンの効果はどのくらいで現れるの？どのくらい効果は続くの？

A：ワクチンを3週間隔で2回接種した場合、接種1ヵ月後に77%の方が有効水準に達し、接種3ヵ月で有効水準が78.8%になります。しかし5ヵ月では50.8%と減少するという報告があります。流行期の1ヶ月前までには、ワクチン接種されることをお勧めします。

2015年度の国内のインフルエンザワクチン製剤については、国立感染症研究所インフルエンザワクチン株選定のための検討会議において下記の4株に決定されました。

A/カリフォルニア/7/2009 (H1H1) pdm09

A/スイス/9715293/2013 (H3N2)

B/プーケット/3073/2013 (山形系統)

B/テキサス/2/2013 (ビクトリア系統)



昨年までは、3価でしたが、WHOの推奨によりB型が2株となり4価のワクチンに変更になり、接種価格も上昇しています。

インフルエンザ予防接種について②

当院では10月19日(月)よりインフルエンザ予防接種を実施いたします。ご希望の方がありましたら受付窓口までお申し出下さい。

◆インフルエンザ予防接種について

接種費用：一般の方	3,900円
65歳以上の方	1,500円 (宮津市・与謝野町在住の方)
	3,900円 (他市町村在住の方)

◆お申し込みについて

ワクチン接種は予約制となっております。
公費負担制度を利用される方は、市町村役場にて事前の手続きが必要です。

腰痛についてのお話

一般的に、腰痛は小学生から、歩いておられる高齢者まで、いつでも起こり得る症状です。寝ていることが多い状態でも、骨が弱くなると身体を起こした時などに痛みが出ることはよくあります。

基本、4本足の動物と違い、2本足で起立歩行している人間は当然のごとく、腰に負担がかかっている、腰痛を患う可能性は高いです。

原因のほとんどは、腹筋と背筋のバランスの崩れが腰に負担を強いている事です。腰の辺りの背骨で体重を支えているわけではなく、腰の筋肉で上半身を支えられていると思ってもらっていいでしょう。これらの筋肉をいつもストレッチすることが大事です。その他にも、腰痛の原因は沢山あります。



長く症状が続くようであれば、整形外科専門医に相談されることをお勧めします。

担当 整形外科部長 小柳 博彦

宮津武田病院 院内研修について

当院では、通常の院内業務に加えて、様々な研修を実施しています。昨年実績では約50回程度、研修会等による職員教育を実施しています。院内担当者や・外部講師による研修、Webを使ったネット研修等を行い、病院職員として研鑽を重ねています。

平成27年度においては院内のみならず、近隣関係機関へも参加可能な研修会について案内を行い、地域全体での取り組みを行っております。

このように、介護保険施設や在宅を担っておられる職種と連携を図り、微力ながら病院機能の一端を担い、内外へ情報発信していけるように今後も取り組んでいきたいと思っております。



◆診療科目

内科・消化器内科・循環器内科・外科・消化器外科・整形外科
泌尿器科（人工透析）・皮膚科・形成外科・人間ドック

◆一般外来 受付時間

午前診：午前8：30～午前11：30

午後診：午後1：30～午後4：30（土曜日は午前のみ）

◆休診日

日曜・祝祭日・土曜日の午後

◆病床数 60床 一般病棟(障害者施設等一般)

〒626-0041 京都府宮津市字鶴賀2059番地の1

病 院 電話：0772-22-2157/FAX：0772-22-1125

地域連携室 電話：0772-22-2221/FAX：0772-22-2229